

# おお大勝利

平成 26 年度山東サッカー一部報第 4 号 (4 月 30 日)

サッカー一部保護者の皆様、OB・OGの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

## Mリーグ、Yリーグ連戦に勝利

4 月 27 日 (日) 村山地区リーグ (以降 Mリーグと略記) の第二節天童高校戦が行われました。天童高校は第一節で山本学園に 0 対 11 で大敗しており、苦しいチーム状態であることをうかがわせる。会場は山形明正 G。山形の高校で初の人工芝ピッチを擁する。ちなみに、**全国的にみて、高校で人工芝ピッチが一つしかないのは山形くらいなのではないか**と思われます(部報をお読みの事情通の皆さま、ゼロの都道府県もあるのか、一つだけなのは山形だけなのか、教えてください)。現在サッカー王国と呼んでいい千葉県などは、私立高校の数だけ人工芝ピッチがある位の状況です。ともかくも、出来上がったときには「I 先生 (明正監督)、とうとうやったか」としみじみ感じました。

さて、試合が始まると、序盤こそ得点に恵まれなかったものの、リンちゃん、レスラーと立て続けに得点し、前半 4 対 0。Mリーグで同ブロックの山本 (第三節で激突) と引き分けた場合のことも考えると、得失点での争いにも備えねばならず、より多くの得点が欲しい。すなわち、4 点では物足りない。後半途中からは一年生を大量投入し、特にカズマンことカズマ (初めて呼んだあだ名) はハットトリックの活躍を見せる。1 年生の活躍もあり、終わってみれば山本 - 天童戦と同じ 11 対 0 のスコア。一年生に心強さを感じた一戦となりました。

ちなみに、山本 - 山工戦は 3 対 0 だったため、現時点で山本よりも得失点上 (1 点分だけ<sup>1</sup>)。まあ、勝利すれば難しい計算は不要で、引き分けの場合を考えてばかりいるのも勝負の前の心の持ちようから考えて良くない。ということで、**勝つと県総体行きが決まる山本戦、大切な大切な決戦となります**。応援よろしくお願ひします。

### 5 月 3 日 (土) Mリーグ第三戦 山本学園戦 9:30 キックオフ @山形明正 G

そして 4 月 29 日 (火) は山形県リーグ 2 部 B ブロック (以降 Y2B と略記) の第二節、東海大山形 B 戦が行われました。昨年度東海は 3 チームを Y リーグにエントリー (東海 Ch<sup>2</sup>)。今年からは 4 チーム目となる東海 De をエントリー<sup>3</sup>。さすが、90 人以上の選手数を誇る東海

<sup>1</sup> 山東 - 山工戦が 4 対 0 だったため。

<sup>2</sup> Champion でしょうか、Chasing でしょうか、はたまた Chance でしょうか。変幻自在の攻撃力を誇る東海なので Champagne という解釈もできます。チーム名でも他チームを混乱に陥れるとは、さすが東海です (ちなみに、私は正しい答えを知っておりますが、あえて伏せたいと思います・・・挑戦という意味の言葉ですな)。

<sup>3</sup> こちらは、成長中 (発展途上) という意味の言葉 Developing の略でしょうか。深い味わいのあるチームということで、東海 Deep という呼び名かもしれません。東海の将来を担う豪華な人材がそろうということで、東海 Deluxe の可能性もあります。

大山形です。「選ばれるのには理由がある」とはよく言ったものです。対して山東は選手数 33 名（今年は過去最低数かと思えます）。進学校ということをハンデに考えることもできますが、その言い訳をせず考えると、「選ばれないのにも理由がある」ということでしょうか。ともかく、東海はうらやましい限りの部員数で、「独占禁止法に抵触の可能性あり」と表現しておきます。

さて、そんな選手層の厚い東海ですから、B チームとはいえ、強豪であることには変わりない。ただ、県でチャンピオンを目指している山東としては、B に負けてはいけない。もちろん、A なら負けてもいいということにはなりません、B には余計に負けてはならない。そんな気持ちで試合に臨みました。会場は前々日に引き続き、山形明正。すなわち人工芝。山東は午前は通常授業なので（午後から PTA 総会<sup>4</sup>）、選手は授業が終わってから自転車で急ぎ明正 G まで駆けつける<sup>5</sup>。OB 会からは清野会長、後藤報道局長がいつも通りいらっしやる。**PTA 総会にもめげず、多数の保護者の皆様も応援に駆け付けている**。心強い応援を背に 14:00 キックオフ。

試合が始まると、山東ペース。CK をたびたび得る。しかし、ヘディングでは得点の匂いがしない。こぼれ球のシュートがゴール前にいたシャモジの足に「当たった」のは惜しかった。あのシーン、シャモジはシュートが（なぜか）自分の所に飛んでくることを予想して準備することしかできなかった（ボールに絡むとしたらその可能性しかなかった）はずで、「突然ボールが自分の所に飛んできてうまく対応できなかった」という感想だとしたら、全く言い訳にならない（本人に確認していませんが）。あと、CK のこぼれ球からのカツミのミドルシュートがバーを叩いたのも惜しかった。試合前、「お前は惜しいシュートを放つが、『惜しい』でいつも終わっている。しかも、外れるのは横ではなく、いつもバーかその上だ。しっかりボールを叩いて（上から押さえて）枠に飛ばせ。不運なのではなく技術的な問題だ。」と話していたのですが、またもやバー直撃。奥山 OB 会副会長なら、「山東の選手はバーに当てるのが上手い」と表現したことでしょう。ともかく、CK を何度も得るものの、得点できず。東海は前線からの激しいプレッシングとタッチ数の少ない素早いパス回しで攻めるが、前半の山東の守備は安定しておりシュートを打たせない。そんな中、ショートカウンターからクリロンが人工芝を這うパスをムンタリに供給し、ムンタリが GK との 1 対 1 を冷静に決め、山東先制。その後またしてもムンタリのドリブル突破から PK を獲得し、主将コウタが決め、前半 2 対 0。

後半も最初は山東ペースでしたが、徐々に東海の素早い出足に後手を踏むシーンが増え、セカンドボールを拾われ始め、東海ペースに。GK ケッツンの高い位置どりをよく観て放ったロングシュートがポストに当たり事無きを得るなど、運に助けられる。そんな悪い流れの中、相手ゴール前でゴチャゴチャした展開から幸運な 3 点目を得る。その後、山東 2 年サブローの兄で東海 3 年のジロー君が途中出場し、滑らかなボールコントロールからアウトサイドで出されたスーパースルーパスにより危ないシーンを作られる。そんな、山東にとってあまりよくない後半でしたが、**ディフェンス陣はゴール前では相手に仕事をさせなかったと評価していい**でしょう。結局 3 対 0 で山東の勝利。勝つには勝ったが、後半ミドルサード<sup>6</sup>の攻防で後手を踏んだ

<sup>4</sup> 代休は 5 月 12 日（月）。地区総体の翌日。

<sup>5</sup> 明正 G へのトップ到着は 1 年ダンチョーことタクオ。先日の保護者会にて、お母様が私の山形一中時代の国語の恩師であることが判明しました。その際、お母様は私を担当したのは他の先生と仰っておりましたが、3 年生のときに教わったような記憶が。3 年時の国語のテストで、馬が鳴くことを日本語で何と言うかという問題が出て、私は意味がわからず「ヒヒーン」と答えたのですが、答えは「いななく」。そんな問題難しすぎる（そんな言葉使わない）旨の苦情を寄せた記憶があります。青かったですね。

<sup>6</sup> サッカーでは最近、ピッチを 3 分割して表現するのが流行りです。相手ゴール前 3 分の 1 が Attacking 3rd、真ん中 3 分の 1 が Middle 3rd、自陣ゴール前 3 分の 1 が Defensive 3rd (Defending 3rd) です。

ことは反省材料としなければなりません。

ともかくこれで、今期4連勝。勢いに乗り日曜日のMリーグ最終節に向かいます、と強気に表現しておきましょう。応援ありがとうございました。

## 保護者会歓迎会・激励会 賑やかに挙げる

4月27日(日)メトロポリタン山形にて、保護者会主催の26年度新入部員歓迎会および総体予選激励会が開催されました。新入生はマネージャー1名を含む合計14名。何とか選手11名を超え、今年の1年生大会は11人揃うこととなりました。しかし、2年生が8名のため、新人チームになったら21名しかおらず、やはり2チーム作れない……。昨年同様に、OBや(春は)新入部員の力を借りて遠征に行く年となります。3学年トータルで部員36名(うち選手33名、マネージャー3名)は、今野が顧問となってから最低人数<sup>7</sup>。先に書きましたが、「選ばれないのにも理由がある」と解釈し、精進します。とまあ、部員数は少ないのですが、その分なのではないでしょうか、ご夫婦で参加する保護者の方が多かった！ 総勢は90名を超える。OB会からは、**清野会長、後藤報道局長、岸幹事長、芹川トレーナー、齋藤GKコーチ**の4名のご臨席を賜り、そして、とうとう！ **元顧問であらせられる佐竹校長**のご臨席を賜り、賑やかに挙行されました。

草壁保護者会会長の山東サッカー部を応援する短くも迫力あるご挨拶に始まり、山東サッカー部のチームカラーについての顧問の話、そして清野OB会会長の熱い激励と佐竹校長の応援メッセージを頂戴して、宴会スタート。注ぎつ注がれつして、一通り盛りあがった後に、志村先生、後藤さん、岸さん、芹川さん、齋藤GKコーチの順にスピーチ。そして、その後、2年、1年、3年の順に選手の意気込みを語るスピーチ。ここ数年、スピーチにおいて保護者の方やOBの方を引き付ける部員が少なくなっていることを気にかけていた顧問が、今年はテコ入れをはかり、1年・2年の半分は3年生を励ますよう一発芸または漫才をやるよう指示を与えていました。シャモジの一発ギャグは不発でしたが、次の**サフローのケン球芸**は会場を沸かせる。惜しくも宇宙一周はできなかったが上出来。**今年のサフローの(サッカーにおける)活躍が予想されました**。そして、1年生は、**ユウティとワタコーの漫才**が良かった。酔っぱらっていたので話は忘れましたが、漫才をする勇気が重要。**堂々と自己主張/自己開示できないようでは、サッカー選手としても活躍できません**。3年生の部長・副部長いじりは恒例。チョマヌキの「日本で松岡修造の次に熱い男コウタキャプテン」という紹介がもっとも印象的。スピーチでは、現在のポジションを「(私の息子コウゾウの)子守」と表現したカッツを始め、会場を沸かせる内容が多かったような。今年(の山東サッカー)は期待して良い……。そう感じました。最後は**リンちゃん父の力強いエール**で締め。血管が切れてしまうのを心配する位に力強い、力強すぎるエールを頂戴しました。

選手・顧問は、県総体の切符を勝ち取り県総体を勝ち抜くためエネルギーを頂戴しました。保護者会の皆様、ありがとうございました。

<sup>7</sup> 18年度47名、19年度51名、20年度50名、21年度42名、22年度43名、23年度47名、24年度50名、25年度42名。

## ♪連絡♪

先日後藤報道局長から、元顧問鈴木正浩先生から届いた激励メールを転送にて頂戴しました。鈴木先生は長年山東サッカー部の顧問を務められ、前顧問晃先生の代でインターハイ、選手権の二冠を達成した際の監督、現顧問今野の代でインターハイに出場した時の部長先生でありました。よって今野のときには、鈴木部長・佐竹監督（現校長）体制だったということになります。このたび掲載許可を頂きましたので、ご紹介いたします。

シーズン開幕の第一戦に快勝、うれしいことです。

新入生も早くも先発して活躍、もったようでした。

校長先生がいつも現場で応援してくれて、・・・

これは他の学校にはありませんよ。

最後のコメント「勝って勝って勝ちまくれー」、ぜひ！

今年は創立130周年、いい成績を、と願っています。

そういえば100周年では2冠、べにばな国体時に宮崎インターハイで1勝。

節目に強い山東です。

あの時の監督（佐竹先生）と先取点ゲッター（今野先生）が揃っているのだから、指導陣は万全。

あとは選手次第！

がんばれ、130周年のサッカー部。

「フィールドを駆け抜ける風になれ」はホントになつかしい。

局長さん、毎回大変ですが、今シーズンもよろしく。

現場の臨場感を味わうべく、楽しみにしている老人がいることもお忘れなく。

